様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：３２６０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2016
課題番号：２５７７００３７

研究課題名（和文）中世舞踊の技法と機能―乱拍子舞・風流踊りを中心に

研究課題名（英文）A Study of Medieval Dances in Japan

研究代表者
沖本　幸子（OKIMOTO, Yukiko）

青山学院大学・総合文化政策学部・准教授

研究者番号：００５０８２７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：乱拍子研究が飛躍的に進んだ。特に、乱拍子が能の〈翁〉の成立に関与していることを、文献資料と民俗芸能の双方に立脚しながら明らかにしたことは、中世芸能史の新しい局面を開いたものとして特筆される。その1つの成果が2016年2月に刊行した『乱舞の中世－白拍子・乱拍子・猿楽』で、同年12月に本書はサントリー学芸賞（芸術・文学部門）を授与された。その後も乱拍子の展開を追いながら、能楽前史の解明に努めている。

研究成果の概要（英文）：I have been able to make some significant advances in my research into medieval performing arts, clarifying the answers to several important research questions around the origins of Noh that have long remained sources of ambiguity. I have been able to clarify, for example, that sarugaku actors combined pre-existing popular dances known as shirabyoshi and ranbyoshi into the foundational “Okina”, which has long been acknowledged as the origin of what we now know as Noh drama, but the origins of the Okina itself were previously unclear.
Performing extremely close readings of the few surviving documentary sources in tandem with carrying out observational field research into performing arts permitted me to clarify how earlier generations had unified their customary songs and dances into the Okina.
This research was published as a book titled “Ranbu no chusei” (Dance in Medieval Japan) in 2016. The book was awarded the 2016 Suntory Prize for Social Sciences and Humanities.

研究分野：芸能史

キーワード：乱拍子　白拍子　猿楽　翁

1.研究開始当初の背景

人はなぜ踊るのか。見せるための、ショウとしての踊りを別するとして、特に注目されてきたのは、シャーマンの舞踊、彼らの神とつながる身体についてだろう。日本での神がかり研究に絞ってみても、自ら神がかりの舞を舞っていた牛尾三千夫による『神楽と神がかり』（1985 年）をはじめ、神がかる大夫の歴史に光を当てた小松和彦『いざなぎ流の歴史』（2011 年）や、中国地方や九州地方の神楽、奥三河の花祭りなど多くの神がかり儀礼に取材した山本ひろ子『変成譜』（1993 年）、『異神』（1998 年）などがある。舞って神がかり、そして、神の託宣を呼び起こす…。それは、もちろん顕著な、そして重要な舞の機能だが、こうした舞に比して、今までほとんど注目されてこなかったことがある。

それは、日本において、職業シャーマンやプロの芸能者にではなく、一般の人々によって、しかも、ごく身近な、たとえば、盆踊りのような形でトランス舞踊が組み込まれ、継承されてきたことである。それらの多くは、神の託宣を導くような激しいものではない。しかし、舞い踊りながら、神々や死者、あるいは、異界に触れていくという点で確かにトランス舞踊と言いうるものだ。そして、こうした民衆のトランス舞踊について研究する必要があると思うのは、日本では、「能」に象徴されるように、神仏や草木、異界がきわめて身近に感じとられており、だれでも交信可能な世界であると信じられていて、そうした思想を保証し、継続させてきたものとして、身近な舞や踊りをとらえなおす必要があると考えるからだ。

申請者は、ここ数年来、乱拍子という中世の流行舞踊について研究してきた。特に、今までほとんど考察されてこなかった乱拍子舞の芸態と、さまざまな芸能への影響の諸相を具体的に明らかにした点は画期的な成果であり、さらに、乱拍子が能の根本でもある翁猿楽の成立にも関わっていたことが見えてきつつある。これが完全に立証されれば、これまでルーツが明らかにされていなかった翁猿楽研究に一石を投じるばかりでなく、呪術との関係からのみ構想されてきた能の成立史を 180 度転換させるものとなる。

また、中世の身体を考える上で、白拍子・乱拍子と同じく、もう一つ重要なのが「風流踊り」である。盆踊りのルーツとなって、民衆の身体性を支えた踊りだが、祭祀儀礼の中で、乱拍子と風流踊りとは、それぞれ、神仏、死者と交わるための舞踊として継承されてきた。本研究では、こうした事実を踏まえ、祭祀儀礼、民俗芸能における乱拍子と風流踊り、それぞれの技法と機能、役割を具体的に分析しながら、能の成立、継承を支え、民衆の中に生き続けてきた異界と交わる舞踊の身体の実像を明らかにしていく必要があった。

２．研究の目的

日本において、神々や死者、異界と交流を持つことは、職業的なシャーマンや芸能者の特権ではない。たとえば盆踊りのような、一般の人々が行う祭祀芸能の中にも織り込まれて身体化され、それが、死者や草木の霊との交信を構造化した「能」という演劇の成立を支えてもきた。

本研究は、「能」が生まれた中世に起源を持ち、今も各地の祭祀芸能の中に生きる乱拍子舞と、盆踊りのルーツである風流踊りに焦点を当て、人々がどのように異界との関係を切り結んで生きてきたのか、そして、そうした人々の身体性がどのように能（翁猿楽）の成立、継承に影響を与えてきたのか、今は失われた芸能を復元的に研究し、その成果を海外にも広く発信していくことを目的とした。

３．研究の方法

精緻な文献研究と、フィールドワークによる聞き取り、芸態研究を組み合わせ、さらに、絵画資料なども広く取り込みながら、できる限り総合的な研究を目指した。

４．研究成果

特に中世前期の芸能研究、乱拍子研究が飛躍的に進んだ。とりわけ特筆すべきは、猿楽者たちが、当時の流行芸能（白拍子や乱拍子と呼ばれる）を組み合わせて、能の根源たる「翁」を作り上げたことを明らかにした点だろう。

「翁」は能の中で重要なだけではなく、日本芸能史全体の中でもきわめて重要な存在だが、今に至るまで、この翁が果たして何者で、どのようにして芸能として形作られたのか明らかになってはいない。近年の一つの特徴は、思想史的な関心が強いことで、とりわけ、翁は何者かという問いについて、通説とされてきた摩多羅神との関係を問い直す研究が出てきたことは特筆すべきだろう。一方で、芸能史的に、どういう芸能の流れの中で「翁」が生まれ、形作られてきたのかという点については、ほとんど白紙だったといっても過言ではない。一つの要因は、能楽成立以前の大衆芸能に関する文献資料がきわめて少ないということにある。

しかし、本研究では、限られた資料を読み直し、同時に日本各地に残る民俗芸能の調査を行う中で、当時の芸能がどのように歌われたり踊られたりしていたのか、そして、「翁」がどのようにそこからかたちづくられていったのか、一つの可能性を示すことができた。これは、これまでの芸能史研究、「翁」研究に一石を投じるものでもあるし、また、文献研究とフィールドワークを組み合わせた、総合的、かつ復元的な研究方法そのものがきわめてユニークだったといえる。

今回の研究の大きな成果は、2016 年に出版した『乱舞の中世－白拍子・乱拍子・猿楽』に凝縮されている。

なお、本書は、朝日新聞（評者蜂飼耳（詩人）2016 年 4 月 17 日）や毎日新聞（評者三浦雅士（舞踊評論家）2016 年 9 月 11 日）の書評記事にも取り上げられ、また、同年のサントリー学芸賞（文学・芸術部門）を受賞している。芸能史研究のみならず、諸領域から関心が寄せられたことも、研究の広がりを考える上で特筆されよう。

また、風流踊りの研究についても継続して研究を進めており、そのいくつかの成果を含めて海外で口頭発表を行ったことも、一つの成果といえよう。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1　件）

沖本幸子「〈翁〉生成の磁場」（『ZEAMI』5 号、森話社、近刊予定、査読有）

〔学会発表〕（計　3　件）

Yukiko Okimoto “How Historical Research Can Bring the Past Alive in the Present” (2015 International Conference of Performing Arts, 台湾戯曲学院（台北、台湾）2015/11/11）

Yukiko Okimoto ” Co-existence with the Dead: Liminality in Japanese Performing Arts ”(Symposium on Co-existence in Asian Thought, Yangon University (Yangon, Myanmar) 2014/02/13）

沖本幸子「〈翁〉芸の生成－白拍子・乱拍子をめぐって」（仮面フォーラムⅢ「宗教芸能の深層へ」和歌山市立男女共生推進センター（和歌山県和歌山市）、2014 年 1 月 11 日

〔図書〕（計　1　件）

沖本幸子『乱舞の中世－白拍子・乱拍子・猿楽』（吉川弘文館、2016 年 2 月、206 ページ）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
沖本　幸子（OKIMOTO,Yukiko）
青山学院大学・総合文化政策学部・准教授
研究者番号：00508278

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
藤田隆則（FUJITA,Takanori）（京都市立芸術大学・教授）
小林葵（KOBAYASHI,Aoi）（青山学院大学・大学院生）